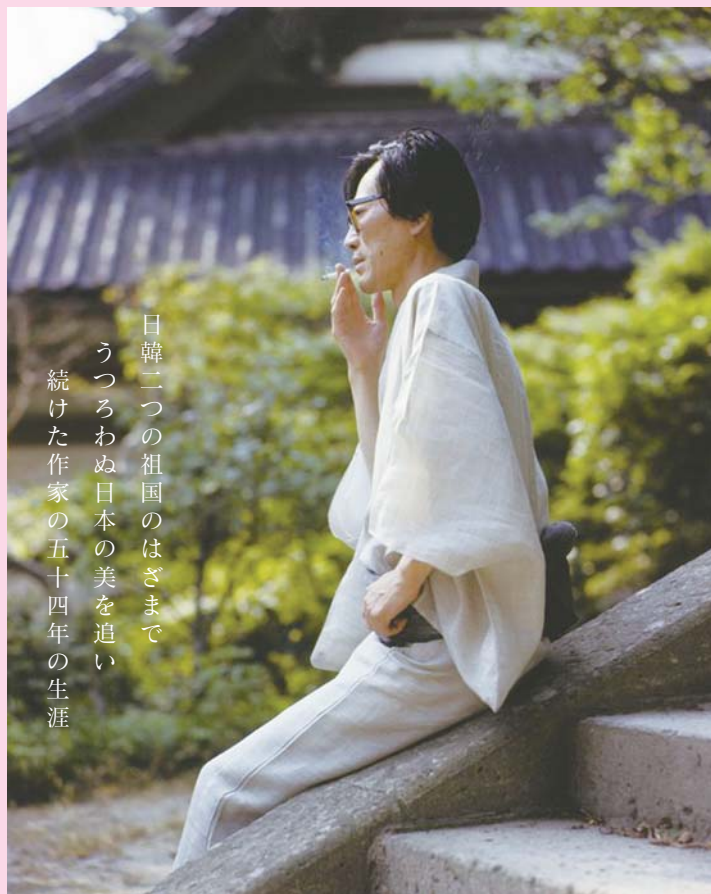


「立原正秋展」

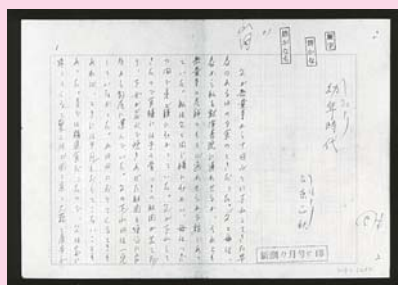
現代風俗によりみかえる古典の美

会期 平成二十一年四月二十五日(土)～六月五日(金)
会場 仙北市角館町 新潮社記念文学館
主催 仙北市・仙北市教育委員会
後援 秋田魁新報社・角館図書館後援会
協力 県立神奈川近代文学館
日本近代文学館
新潮社



写真提供：新潮社写真部

日韓二つの祖国のはざまで
うつろわぬ日本の美を追いつつ
続けた作家の五十四年の生涯



「冬のかたみに」幼年時代
原稿(神奈川近代文学館所蔵)

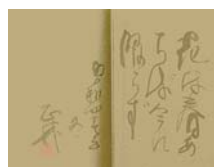
立原正秋

1926年(大正15年)－1980年(昭和55年)享年54歳。小説家。現大韓民国慶尚北道安東郡に出生。

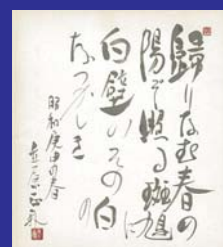
昭和12年、11歳で渡日。早くから作家を志す。
昭和41年、「白い罌粟」で第55回直木賞受賞。
独自の作風で多くの愛読者の心を捉え、ベストセラー作家となる。

代表作

小説:「薪能」、「剣ヶ崎」、「冬の旅」、「春の鐘」、「紬の里」、「夢は枯野を」、「残りの雪」、「冬のかたみに」、「帰路」等。随筆:「秘すれば花」、「日本の庭」等。最後の作品は「その年の冬」。
『立原正秋全集全24巻』(角川書店)。



花は春あらば
今に限らず
(署名本)



色紙(複製)



立原正秋と高井有一

二人は1964年(昭和39年)の夏に出会う。共に同人誌「犀」の創刊に参加。立原は高井を得がたい年少の友と記している。高井は立原の指示に従い書き直した「北の河」で芥川賞を受賞。二人の親交は立原が亡くなるまで続く。立原の死後、高井は評伝「立原正秋」を発表、1991年(平成3年)毎日芸術賞受賞。
企画展では小説「北の河」、評伝「立原正秋」の原稿など、約150点を展示いたします。



立原正秋展図録
(神奈川近代文学館作成)

立原文学の世界を多くの皆様にご覧いただきたいと存じます。